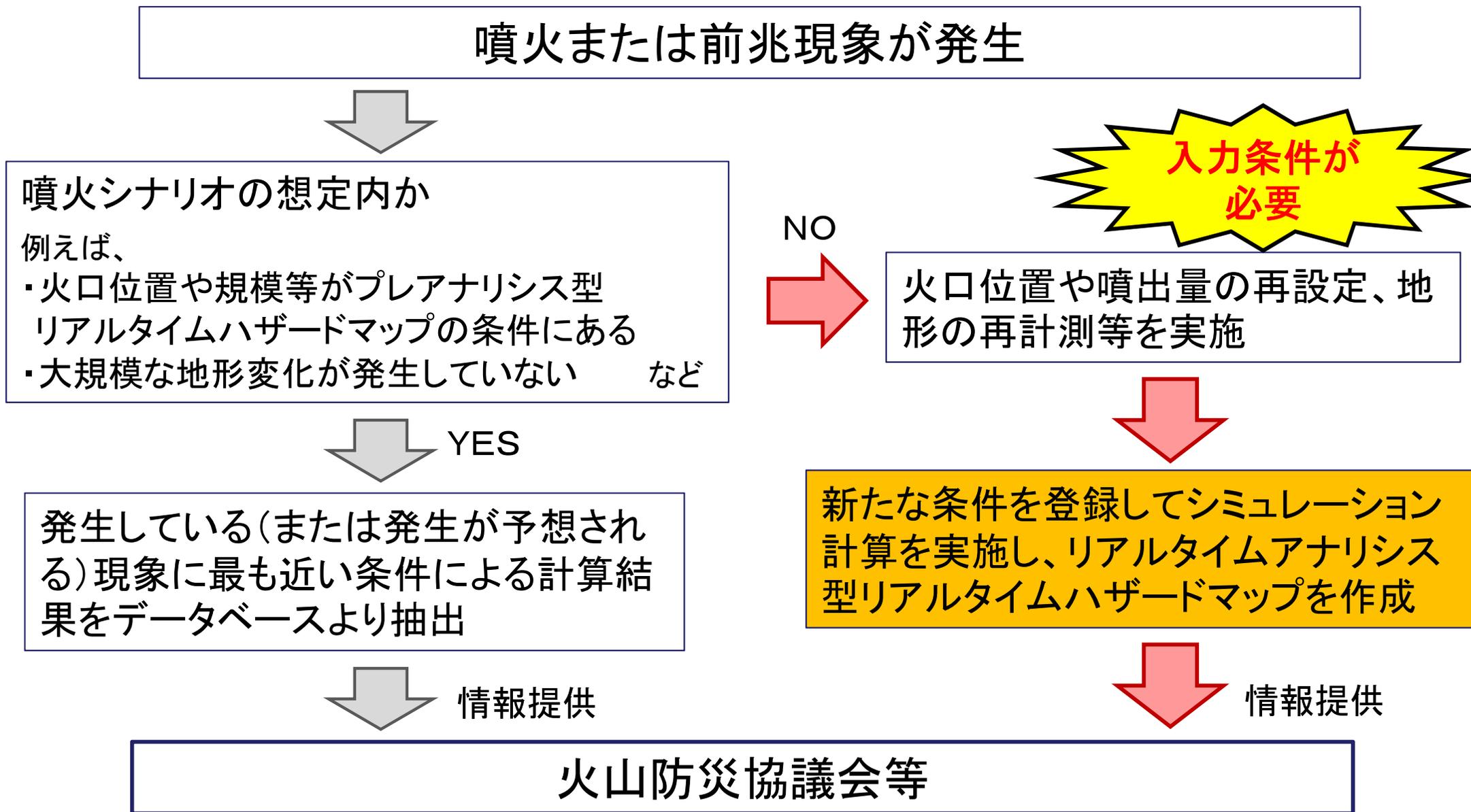


# リアルタイムハザードマップについて

令和2年9月17日

国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部



## プレアナリシス型リアルタイムハザードマップ

想定する噴火現象や土砂移動に対する影響範囲等を予め複数パターン作成しておき、実際の火山活動により近い条件の影響範囲等を抽出し提供するハザードマップ

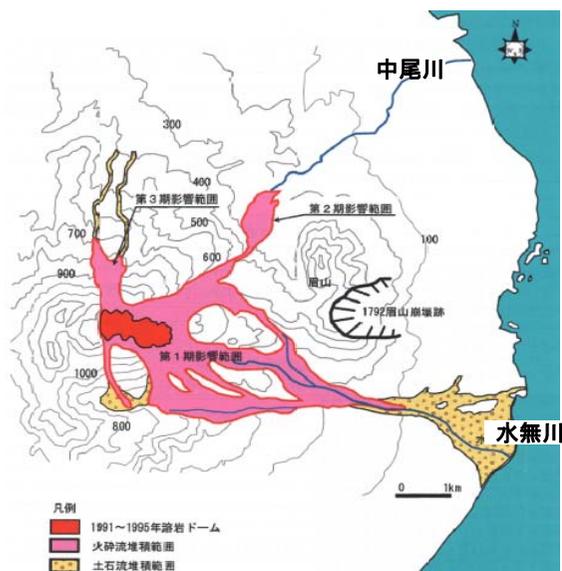
## リアルタイムアナリシス型リアルタイムハザードマップ

噴火現象や土砂移動の発生が予測されたとき、その時の火口位置や地形変化など条件に応じてシミュレーション計算により影響範囲等を想定し提供するハザードマップ 1

# リアルタイムアナリシス型RTHMの有効な例

平成2年に噴火を始めた雲仙・普賢岳は、溶岩ドームの形成位置の変化に伴い、火砕流の流下方向が変化。さらに、火砕流が谷を埋め、流下方向を変化させた。

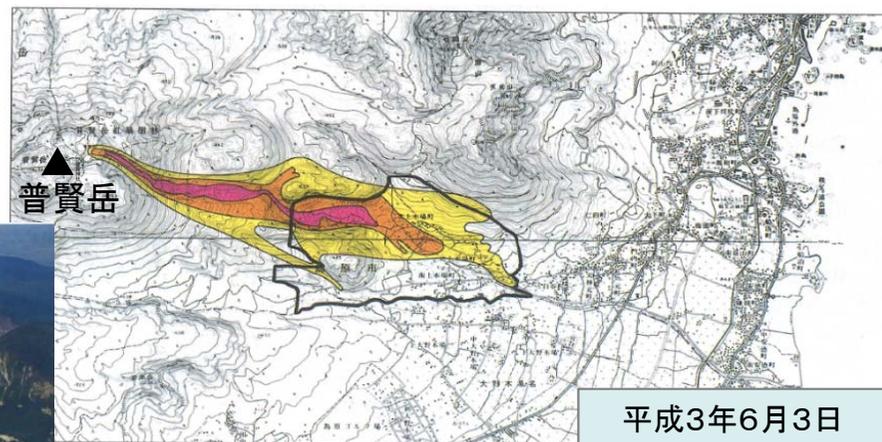
住民等の安全確保のため、噴火活動の変化に応じた、土砂移動現象の影響範囲の想定が必要



火砕流による被災区域図(第1期～第3期)

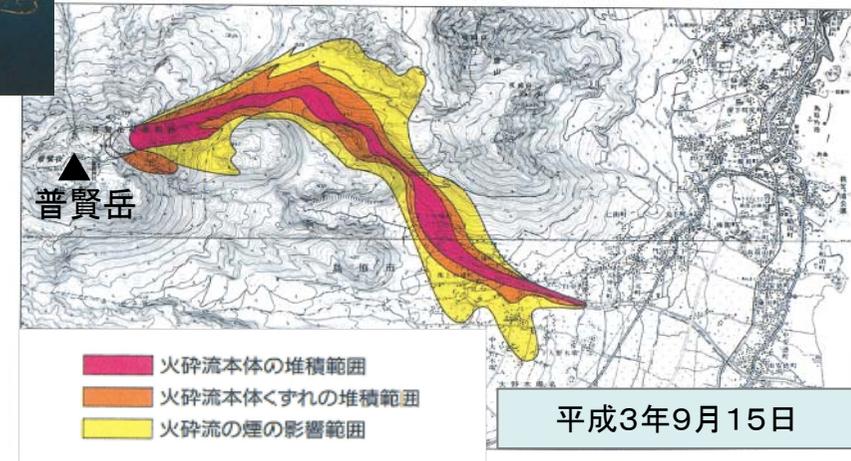


水無川流域の被災状況  
(平成5年9月)



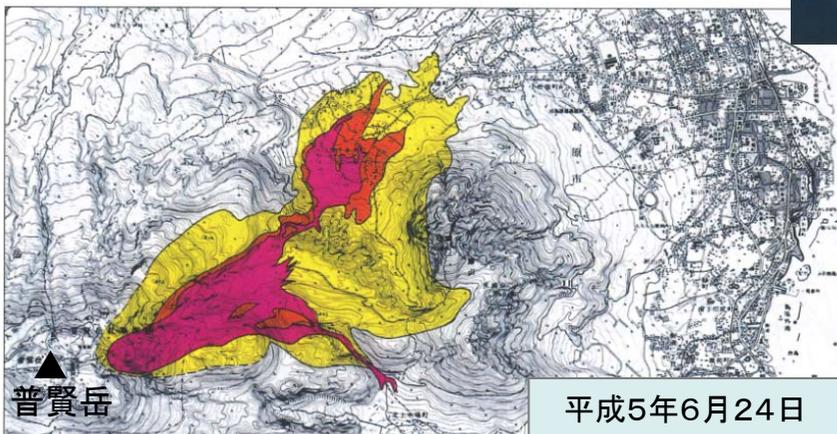
平成3年6月3日

東方向に火砕流が発生し水無川を流下



平成3年9月15日

北東斜面方向で火砕流が発生し、その後向きを南東に変え水無川を流下



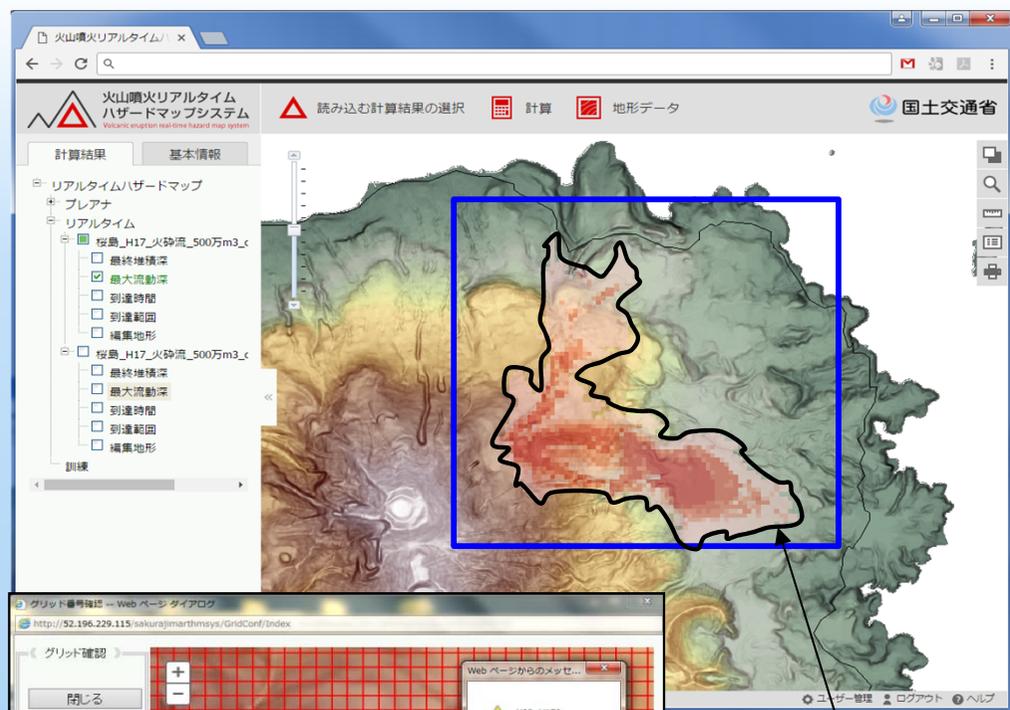
北東斜面方向で火砕流が発生し、中尾川を流下

平成5年6月24日

## ○火口位置による計算結果の違い

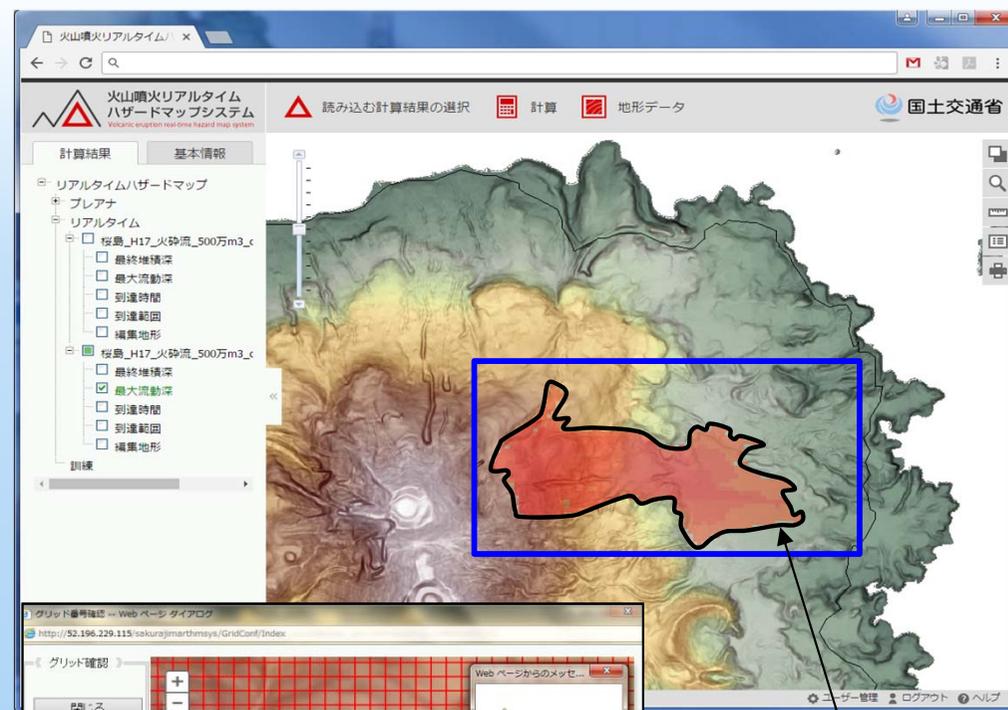
- ・火砕流500万 $m^3$ の氾濫範囲の計算結果を示す
- ・火口位置以外の計算条件は同じ

### 元の火口位置における計算結果



氾濫範囲

### 火口を南に300m移動した場合の計算結果



氾濫範囲

火口位置を南に  
300m移動